

柳川市の掘割の再生

一度は荒廃してしまった柳川の掘割。全国の先駆けとなった住民参加の環境改善の取り組みの原動力は、100回を超える住民と行政の話し合いの中で、住民一人ひとりが魚釣りや水遊びをしていた「堀との暮らし」を思い出したことにある。

市民の理解と協力を得ることができ、浚渫作業が住民との協働作業で予想外に進展し、短期間で達成できた。これによって蚊が激減したのを始め、以前は少しの雨で浸水していた地区も浸水が解消するなど、市民の河川愛護心の高揚と相まって大きな成果が得られた。特に沿岸の緑化修景や遊歩道の建設まで進めた域内地区中心部の城堀筋は、市民の憩いの場として有機的に活用され、また、多くの観光客が訪れるようになり、柳川市の経済面にも貢献している。

◆ 再生のポイント

- 河川浄化計画
- 市民の理解と参加を引き出した啓発活動
- 伝統的文化都市環境保存地区整備事業

◆ 柳川掘割の概要

福岡県の南部・有明海に面した柳川市は、水郷の町である。市内を縦横にめぐっている水路網(川・掘割)は、古くから町の基盤をなし、市民の生活や生産活動と密接にかかわり、重要な役割を果たしてきた。以前は炊事・洗濯は勿論飲料水にも使われ、また物資の輸送もこの水路が利用されてきた。ところが、水運が陸上輸送に変わり、農作業の近代化、特に化学肥料の使用は、従前のような水路をさらえ客土することを必要としなくなったばかりか、水質への負担を高める結果となった。また、上水道の普及によって掘割水の飲料水としての必要がなくなり、加えて、汲み取りからし尿浄化槽への転換が進み節度を失った雑排水の直接流入は、水質汚濁に一層拍車をかけることになった。こうした荒廃を目の辺りにして、市民の間にもようやくかつての清流を取り戻そうという反省と気運が生まれ、再生への試みが始まった。



◆ 再生のために実施した事業

【河川浄化計画】

計画は、市民参加で荒廃した川や掘割に清流を取り戻し、水と緑によって統合されたゆとりのある居住環境を復活して、これを次の世代に引き継いでいこうというものである。具体的には、浚渫、流水の確保や沿岸の緑化修景、遊歩道建設などを中心とした「河川の整備」と「汚水の流入抑止」及び市民参加による「維持管理」を柱とした。

【市民の理解と参加を引き出した啓発活動】

浄化を成し遂げるためには、住民の理解と参加が不可欠であり、そのためには、行政が住民と直接膝を交えて啓発活動に努めることが必要であるという基本的な考えのもとに、住民懇談会をはじめ、徹底的な啓発活動が行われた。2年間で100回に及ぶ住民懇談会を中心とした啓発活動は、住民に潜在していた清流への希求を呼び起こした。市民の理解と協力により、例えば、難航を覚悟していた浚渫作業に関しても、住民との協働作業で予想外に進展し、短期間で達成するという成果が得られた。

【伝統的文化都市環境保存地区整備事業】

柳川市の掘割地域は、昭和53年の第三次全国総合計画に基づく地方都市整備パイロット事業の一環として行われた「伝統的文化都市環境保存地区整備事業(伝文事業)」の対象地域指定を受け、整備計画が策定された。この事業は、河川、堀割を修復・浄化することや定住の場として護岸、遊歩道、植栽などの各種施設を充実させることによって、今一度、水と住民とのかかわりから掘り起こし、柳川の伝統的文化の柱に掘割を置き、水系によって統合されたゆとりのある居住環境を復活し、保存活用していく事業である。